

Creativity & Challenge

株主・投資家の皆様へ

平成18年7月期（第45期）報告書

平成17年8月1日から平成18年7月31日まで



包装システムのトータルプランナー

ゼネラルパッカー株式会社

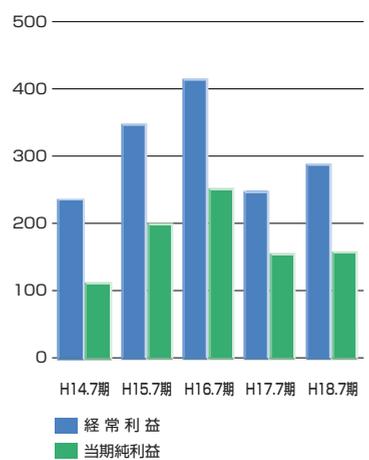
(単位：百万円)

	平成14年7月期 (第41期)	平成15年7月期 (第42期)	平成16年7月期 (第43期)	平成17年7月期 (第44期)	平成18年7月期 (第45期)
売上高	3,414	3,829	3,983	3,726	4,394
営業利益	222	337	401	240	278
経常利益	233	345	412	245	285
当期純利益	109	197	249	152	154
総資産	3,757	3,752	4,463	4,870	4,824
純資産	1,994	2,153	2,587	2,644	2,728

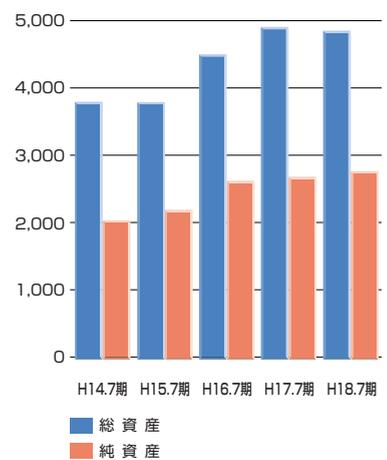
売上高・営業利益
(単位：百万円)



経常利益・当期純利益
(単位：百万円)



総資産・純資産
(単位：百万円)



代表取締役会長 原 淳 代表取締役社長 梅森 輝信

株主・投資家の皆様には、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

日頃は当社に温かいご支援を賜り、誠にありがとうございます。

ここに、当社第45期の報告書をお届けするにあたり、ご挨拶をかね、営業の概況等についてご報告申し上げます。

● 当期業績の総括

当期の包装機械業界における需要業界の設備投資の動向は、業種間・企業間において、二極化の傾向がますます強まっている状況にあり、一部に明るい兆しが見えるものの、全体としては中小企業を中心に設備投資意欲はなお慎重姿勢が続いております。

このような経済環境の中で、当社は平成20年7月期を最終年度とする中期経営計画の達成に向けた計画経営の推進を図り、中長期的な成長基盤の強化と収益力の強化に努めてまいりました結果、当期は過去最高の売上高を達成することができました。

● 中期経営計画の達成に向けた施策

当社は、環境変化に迅速かつ的確に対応できる経営体制の確立と人材育成の強化などに努める一方、内部統制システムの強化に取り組んでおります。また、平成20年7月期を最終年度とする中期経営計画の達成を最重要課題として位置づけ、企業ビジョンに掲げた「各利害関係者より信頼され、支援される企業」の実現を目指すとともに、第2期目である次期（平成19年7月期）の計画経営を推進する中で、引き続き各施策のさらなる強化とスピードアップを図ることを基本方針として、以下の具体的な課題に対処してまいります。

- ① 営業本部4部体制の強化を図る
- ② 新規顧客・販売チャンネルの開拓を図る
- ③ 新機種開発のスピードアップと開発機の高品質化を図る
- ④ 生産性の向上と高品質体制の強化を図る
- ⑤ 内部統制システム・コンプライアンス・リスクマネジメント体制の強化に取り組み、コーポレート・ガバナンスの体制確立を図る
- ⑥ 新人事制度の運用及び定着化と、人材確保・人材育成の強化を図る

以上に掲げた事項を中心にして、中期経営計画の達成に向けた施策を強化し、一層の業績の向上と企業の健全性に努めてまいります。

株主・投資家の皆様におかれましては、今後とも、一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成18年10月

● 業績全般の概況

当社の営業活動におきましては、東京と名古屋で開催された二つの展示会への出展による見込み客の増大や新機種の拡販、並びに設備投資需要の増加が期待される医療分野・健康食品関連業界・ペットフード業界への受注活動の強化、海外案件の開拓等、積極的な営業活動を推進してまいりました。

この結果、当期の売上高は、高機能・高価格機種の販売が好調に推移するとともに、大型包装システムの販売の寄与もあり、過去最高の4,394百万円（前期比17.9%増）となりました。また、損益面につきましては、前期に比べ人件費の増加や展示会出展費用の発生等により、販売費及び一般管理費が大幅に増加しましたが、高粗利益機種の販売台数の増加等により、売上総利益率が増加したことから、経常利益は285百万円（前期比16.4%増）となりました。一方、新機種開発や仕様変更等に伴う部品のたな卸資産廃棄による特別損失17百万円が発生したことから、当期純利益は154百万円（前期比1.3%増）となりました。

● 製品の売上状況

前期に新機種として、高速チャック付製袋自動包装機6700C型等の新機種を完成させましたが、当期におきましても、高速ガス充填自動包装機GS2H型の新機種を完成させました。

また、製薬会社向けへ横挿入式給袋自動包装機HV8KLR型と大型包装システムを完成納入するとともに、精米会社向けへ製袋・給袋兼用自動包装機355BST型を完成納入しました。

当期は、低価格機種を中心に既存機種の販売が低迷したことから、機械合計の販売台数は127台（前期比24台減）となりました。

● 品目別売上高の状況

給袋自動包装機は、販売台数は減少しましたが、高価格機種の実績が増加したことから、売上高は2,018百万円（前期比8.8%増）となりました。

製袋自動包装機は、高価格機種の実績が寄与しましたが、前期に比べ販売台数が減少したことから、売上高は603百万円（前期比9.0%減）となりました。

ガス充填自動包装機は、需要が低調に推移し、前期に比べ販売台数が減少するとともに、低価格機種の実績が中心となったことから、売上高は89百万円（前期比46.3%減）となりました。

この結果、機械合計の売上高は2,710百万円（前期比1.0%増）となり、包装関連機器等は、大型システムの実績が寄与するとともに、高額システムの実績が増加したことから、918百万円（前期比124.3%増）となりました。

また、保守消耗部品その他は、印字機等の取付改造需要の増加により、高額な保守案件の実績が増加したことから、売上高は765百万円（前期比21.0%増）となりました。

● 次期の見通し

今後の見通しにつきましては、わが国経済は、原油価格の高騰や日米金利の上昇、米国経済の減速など予断を許さない状況にあるものの、民間設備投資の増加や個人消費も底堅く推移し、緩やかな景気拡大基調が当面続くものと予想されます。

包装機械業界においては、全体としては需要先の設備投資意

欲は慎重姿勢が当面続くものと予想されますが、最大需要先の食品部門の設備投資の回復の動きも見られるとともに、好調な企業業績を背景とした積極的な設備投資の増加も期待できる状況となってきております。

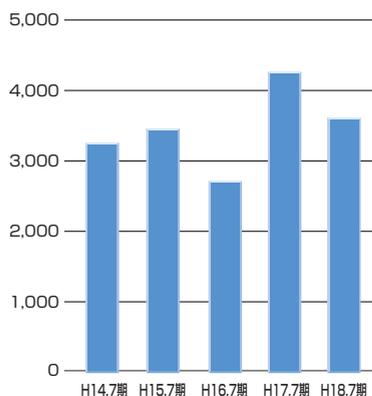
このような状況下で当社といたしましては、顧客ニーズの変化に対してスピーディーかつ柔軟に対応していくとともに、引き続き販売が好調な高機能・高価格機種の受注活動の強化と海外売上の増加等に積極的に取り組み、より一層の業績の向上を図ってまいります。

また、中長期的な成長基盤づくりを強化するための戦略的な投資（人材投資、研究開発投資等）の増加を図りながら、高粗利益機種の拡販やコストダウンと生産性の向上に取り組み、収益力の強化に努めてまいります。

以上により、次期の業績予想といたしましては、売上高4,600百万円（当期比4.7%増）、経常利益400百万円（当期比39.9%増）、当期純利益235百万円（当期比52.4%増）を予想しております。

機械受注高

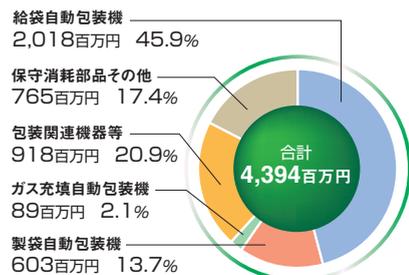
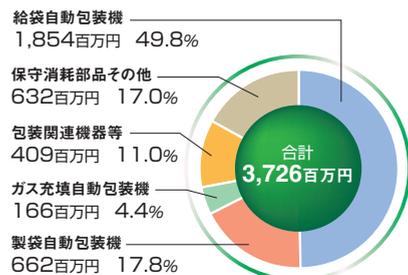
(単位：百万円)



品目別売上高構成比

平成17年7月(第44期)

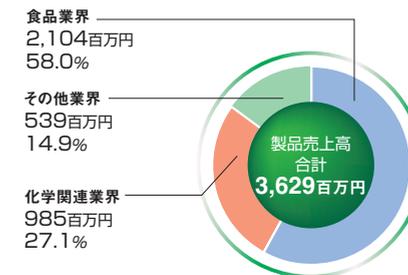
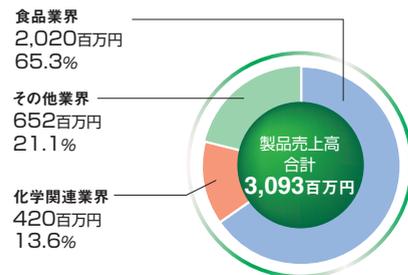
平成18年7月(第45期)



最終ユーザー業界別売上高構成比

平成17年7月(第44期)

平成18年7月(第45期)



(注) 1. 製品売上高合計は、給袋自動包装機、製袋自動包装機、ガス充填自動包装機、包装関連機器等の売上高合計であります。
 2. 食品業界には、精米・製氷・製粉・饅頭業界等を含めております。
 3. 化学関連業界には、製薬・化粧品業界のほか、健康食品関連についても含めております。
 4. その他業界は、機械業界、受託包装業界、種苗業界、ペットフード業界等です。

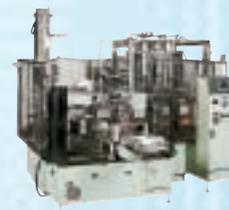
給袋自動包装機

粉末から固形物まであらゆる充填物(米菓、キャンデー、ビスケット、スナック食品、穀類、豆類、ふりかけ、パン粉、各種海産物、小麦粉、きな粉、だんご粉、うま味調味料、粉末薬品、機械・電気等の部品、その他袋詰可能な物)に対応できます。また、対象物、袋サイズ、袋形態の幅広いニーズに対応が可能です。



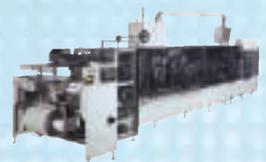
ガス充填自動包装機

不活性ガス封入(花かつお、コーヒー、バターピーナッツ、お茶、ピーナッツ、カットチーズ、生パン粉等のガス充填包装対象物)により商品のシェルフライフを延長させることが可能です。



製袋自動包装機

充填物は、給袋自動包装機と同様ですが、小袋の高速包装から大袋用包装(精米、業務用スバグティ、顆粒洗剤、うま味調味料、輸液パック等)までの対応が可能で、包材はコストの安い各種のフィルムを使用できます。また、包装システムライン化のための後工程機械との連動に適しています。



包装関連機器

当社包装機をシステム化するための周辺機器及び顧客の生産に必要な他社包装関連機器を取扱うことで、幅広い包装ラインの合理化・省力化に対応が可能です。



2006中部パックに出展

平成18年4月12日から15日まで、ポートメッセなごやにおいて開催された「2006中部パック」に出展しました。

中部パックは今年で15回目を迎え、「中部に集う食と包装の先端技術」をテーマに、中部地区最大規模の展示会として地域社会や業界に定着しています。

当社は6機種を出展し、GP-2000UST型においては、サーボ制御による自動袋高さ修正装置搭載で安定包装、チャック付スタンドパウチにも対応できる新機種として展示。最新のサブリメントの実演包装、計数機・小袋投入機と連動、印字装置・文字検査装置の実演を行いました。また、GP-2550UST型では、高速高置換ガス充填システムを搭載した海外向け仕様機を展示しました。



新製品紹介

高速ガス充填自動包装機 GP-GS2H型

<製品の特長>

- 包装能力が従来機比38%アップ(40袋/分⇒55袋/分)、大幅な生産性向上に寄与
- 袋高さを自動補正する機能やタッチパネル式操作盤を搭載し、操作性が向上
- ピーナッツやパン粉などのB5サイズ以下の包装に対応し、ピーナッツ業界を中心に、食品業界へ拡販



■ 貸借対照表

科 目	当期(第45期)	前期(第44期)
	平成18年7月31日現在	平成17年7月31日現在
資産の部		
流動資産	3,883,617	4,184,183
現金及び預金	1,571,167	1,538,422
受取手形	373,383	331,533
売掛金	830,560	1,226,623
たな卸資産	983,553	790,114
未収入金	96,765	196,948
その他	28,187	100,541
固定資産	940,761	685,826
●有形固定資産	619,136	497,871
建物	312,757	334,738
土地	280,603	135,882
その他	25,775	27,249
無形固定資産	2,120	2,418
投資その他の資産	319,503	185,536
資産合計	4,824,379	4,870,009

注. 前期については、貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準を適用した貸借対照表に組み換えております。

POINT 1

当期末の有形固定資産は、本社隣接地の取得により土地が増加したことから、前期末比121百万円の増加となりました。

(単位：千円、千円未満切り捨て)

科 目	当期(第45期)	前期(第44期)
	平成18年7月31日現在	平成17年7月31日現在
負債の部		
流動負債	1,848,452	1,933,460
支払手形	1,138,689	1,130,410
買掛金	309,338	407,487
賞与引当金	30,331	23,643
その他	370,092	371,919
固定負債	247,227	292,195
退職給付引当金	20,037	26,585
役員退職慰労引当金	227,190	265,610
●負債合計	2,095,680	2,225,656
純資産の部		
株主資本	2,702,628	2,632,715
資本金	251,577	251,577
資本剰余金	282,269	282,269
利益剰余金	2,169,734	2,099,524
自己株式	△ 951	△ 655
評価・換算差額等	26,070	11,638
その他有価証券評価差額金	26,070	11,638
純資産合計	2,728,699	2,644,353
負債及び純資産合計	4,824,379	4,870,009

POINT 2

負債合計は、前期末比129百万円の減少となりました。これは主として、7月の売上高が前期比減少したことによる仕入債務の減少によるものであります。

■ 損益計算書

(単位：千円、千円未満切り捨て)

科 目	当期(第45期)	前期(第44期)
	平成17年8月1日から平成18年7月31日まで	平成16年8月1日から平成17年7月31日まで
売上高	4,394,974	3,726,480
売上原価	3,177,414	2,727,082
売上総利益	1,217,560	999,397
販売費及び一般管理費	939,180	758,846
営業利益	278,379	240,551
営業外収益	9,096	8,687
受取利息	332	129
受取配当金	723	558
保険戻戻金	3,076	—
展示機賃貸収入	—	2,400
受取賠償金	1,465	2,882
団体保険料配当金	941	916
その他	2,556	1,800
営業外費用	1,518	3,606
支払利息	1,280	1,302
賃貸契約解除違約金	—	1,803
その他	238	500
●経常利益	285,956	245,632
特別損失	17,896	100
固定資産除却損	5	100
たな卸資産廃棄損	17,891	—
税引前当期純利益	268,060	245,531
法人税、住民税及び事業税	109,832	80,268
法人税等調整額	4,069	13,040
当期純利益	154,157	152,222

POINT 3

経常利益は、前期比40百万円増加しました。これは主として、販売費及び一般管理費が前期比180百万円増加したものの、売上総利益率の向上もあり、売上総利益が前期比218百万円と大幅に増加したことによるものであります。

■ 株主資本等変動計算書

(単位：千円、千円未満切り捨て)

(平成17年8月1日から平成18年7月31日まで)	株主資本			
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式
平成17年7月31日残高	251,577	282,269	2,099,524	△ 655
当期中の変動額	—	—	70,209	△ 296
剰余金の配当			△ 53,947	
役員賞与の支給			△ 30,000	
当期純利益			154,157	
自己株式の取得				△ 296
別途積立金の積立				—
株主資本以外の項目の当期中の変動額(純額)				
平成18年7月31日残高	251,577	282,269	2,169,734	△ 951

(平成17年8月1日から平成18年7月31日まで)	株主資本	評価・換算差額等	純資産合計
	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	
平成17年7月31日残高	2,632,715	11,638	2,644,353
当期中の変動額	69,913	14,432	84,345
剰余金の配当	△ 53,947		△ 53,947
役員賞与の支給	△ 30,000		△ 30,000
当期純利益	154,157		154,157
自己株式の取得	△ 296		△ 296
別途積立金の積立	—		—
株主資本以外の項目の当期中の変動額(純額)		14,432	14,432
平成18年7月31日残高	2,702,628	26,070	2,728,699

■ キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円、千円未満切り捨て)

科 目	当期(第45期)	前期(第44期)
	平成17年8月1日から平成18年7月31日まで	平成16年8月1日から平成17年7月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	371,085	166,562
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 284,040	△ 99,849
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 54,300	△ 62,586
現金及び現金同等物の増加額	32,745	4,127
現金及び現金同等物の期首残高	1,538,422	1,534,295
現金及び現金同等物の期末残高	1,571,167	1,538,422

会社の概要

Corporate Information

■ 会社概要 (平成18年7月31日現在)

商号 ゼネラルパッカー株式会社
 英文社名 GENERAL PACKER CO., LTD.
 設立 昭和41年2月(創業 昭和36年12月)
 資本金 2億5,157万7千円
 事業内容 各種自動包装機・荷造用機械及び
 周辺装置の製造・販売・修理、
 それに附帯する一切の業務
 従業員数 101名
 本社・工場 〒481-8601
 愛知県北名古屋市宇福寺神明65番地
 Tel. (0568)23-3111(代)
 Fax. (0568)22-3222



本社

東京営業部 〒101-0045
 東京都千代田区神田鍛冶町三丁目5番地8
 神田木原ビル4F
 Tel. (03)3256-3891(代)
 Fax. (03)3256-3893

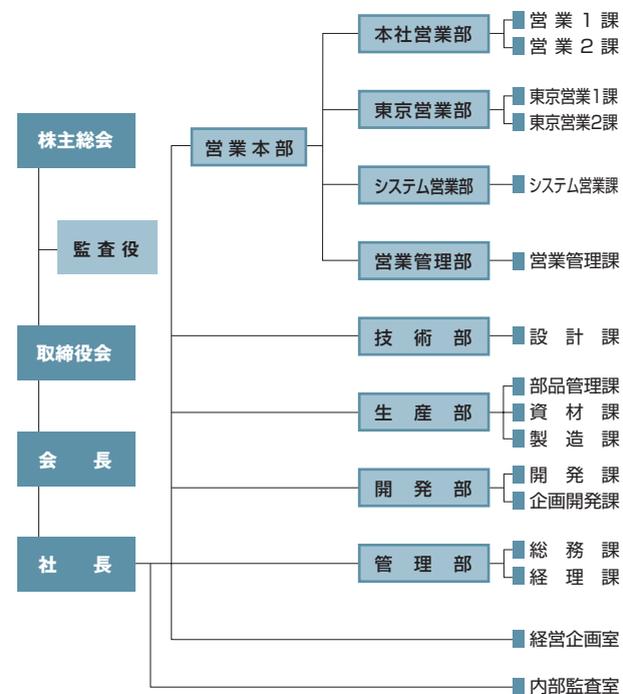


東京営業部

■ 取締役及び監査役 (平成18年10月24日現在)

代表取締役 会長	原 淳	
代表取締役 社長	梅 森 輝 信	営業本部長
専務取締役	池 澤 晃	管理部 長
常務取締役	島 末 孝 法	生産部 長 兼 開発部 長
取締役	工 藤 誠 一	技術部 長
取締役	鈴木 完 繁	営業本部副本部長 兼 東京営業部長
常勤監査役	谷 口 好 旦	
監査役	村 橋 泰 志	
監査役	西 浦 道 明	

■ 組織図 (平成18年7月31日現在)



株式情報

Stock Information

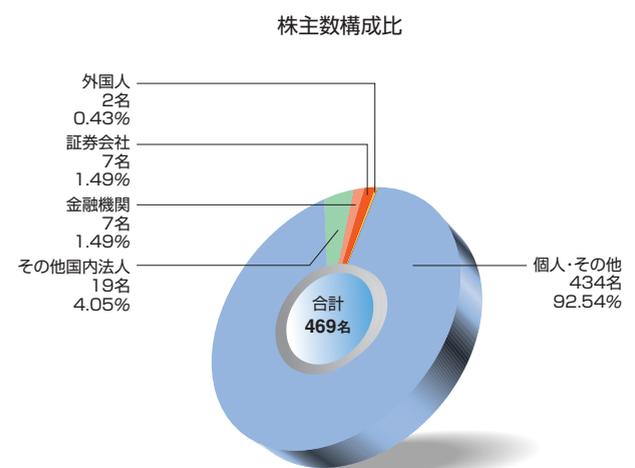
■ 株式の状況 (平成18年7月31日現在)

発行可能株式総数 14,000,000株
 発行済株式総数 4,497,000株
 株主数 469名

大株主

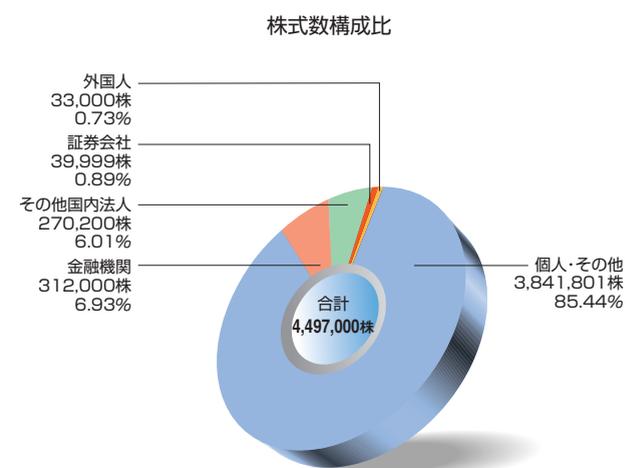
株主名	持株数(株)	議決権比率(%)
ゼネラルパッカー従業員持株会	567,000	12.63
高野 まさ子	500,000	11.13
原 淳	370,000	8.24
りそなキャピタル株式会社	199,000	4.43
株式会社りそな銀行	196,000	4.36
高野 季久美	182,000	4.05
田中 かな	182,000	4.05
安江 禎治	139,900	3.09
原 利子	112,000	2.49
原 晋一郎	112,000	2.49

■ 所有者別分布状況



■ 株主メモ

事業年度 8月1日から翌年7月31日まで
 定時株主総会 10月
 基準日 定時株主総会 7月31日
 期末配当金 7月31日
 中間配当金 1月31日
 その他あらかじめ公告する一定の日
 株主名簿管理人 東京都中央区日本橋茅場町一丁目2番4号
 日本証券代行株式会社
 同事務取扱場所 〒460-0008
 名古屋市中区栄三丁目3番17号
 日本証券代行株式会社 名古屋支店
 Tel. (052)261-1781(代)
 同取次所 日本証券代行株式会社本支店
 公告掲載新聞 日本経済新聞



ホームページをご活用ください。

当社ホームページでは、新着情報、会社情報、商品情報、IR情報等、様々な情報をご提供しています。

今後も皆様にお役立ていただけるよう掲載情報の一層の充実を図ってまいります。



<http://www.general-packer.co.jp/>



包装システムのトータルプランナー

ゼネラルパッカー株式会社

本社・工場

〒481-8601 愛知県北名古屋市宇福寺神明65番地

Tel. (0568)23-3111(代) Fax. (0568)22-3222

東京営業部

〒101-0045 東京都千代田区神田鍛冶町三丁目5番地8 神田木原ビル4F

Tel. (03)3256-3891(代) Fax. (03)3256-3893



環境に配慮した「大豆油インキ」を使用しています。

R100

古紙配合率100%再生紙を使用しています。